

キンボールに関する研究 (1)

— 講習会参加者の意識調査 —

○後藤 太之 (桃山学院大学非常勤講師), 前山 直 (藍野学院短期大学)

三浦 恵子, 後藤 芳子, 松井 外喜子 (梅花女子大学), 蒲 真理子 (北陸大学)

I. はじめに

キンボールは、1984年カナダの体育学士マリオ・ドゥマース氏が考案し、その後試行錯誤を重ね1988年にルールの基本が確立された。当初ケベック・キンボール連盟が中心になり普及に努め、キンボールの理念である協調性、スポーツマンシップの育成、運動能力に関係なく誰でもゲームに参加できることが学校教育に受け入れられ、急速に普及した。現在ではカナダやアメリカの学校5,000校以上で行なわれ、また多数の成人教育コースに取り入れられており、愛好者は250万人を数えている。¹⁾

日本では1997年10月に初めて紹介され、その後日本キンボール連盟が中心となって講習会を通じて普及を行い、2001年9月末日現在で普及活動に携わる会員登録者数は6,939名誕生し、各々の地域での普及に力を注いでいる。また、指導者(リーダー)認定を行える上級指導者(マスター)も195名に達し、地域での講習会や大会も盛んに行われている。²⁾さらに、2001年5月にはカナダ・ケベック州で第1回の世界大会が開催され、第1回ジャパンオープンの優勝チームも参加。2001年8月には第2回のジャパンオープンが開催されている。徐々に愛好者も増え、大会への参加チーム数も増加しているが、まだまだ知名度は低く、全国的な広がりはない。そこで本研究は、キンボール講習会参加者に対しキンボールについての意識調査を行ない、キンボールのさらなる発展を考える上での問題点を探ることを目的とする。

II. 方法

キンボール講習会受講者を対象にアンケート調査を行なった。

- ・対象人数：239名 (年齢構成は表1)
- ・実施場所：岩手県，宮城県，山形県，福島県，石川県，福井県，
富山県，愛知県，岐阜県，奈良県，山口県，
- ・調査期間：1999年11月～2000年6月
- ・回収率：84.3% (有効回答率94.5%)

— 表1— 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上	無回答	計
男	10名	15名	24名	40名	26名	10名	1名	126名
女	10名	20名	25名	32名	19名	5名	2名	113名
計	20名	35名	49名	72名	45名	15名	3名	239名

Ⅲ. 結果および考察

(1) キンボールを知ったきっかけ

「キンボールを以前から知っていましたか」の結果は、「はい」36.0%、「いいえ」62.3%、「無回答」1.7%となり、キンボール講習会を受講してきた人の約 62%がキンボールを知らなかった。

次に、キンボールを以前から知っていたと回答した人に「どこで知ったか」を質問したところ、「講習会・研修会などで知った」72.1%、「本・雑誌等」7.0%、「仕事で知った」5.8%、「授業」3.5%、「テレビ」2.3%、「友人から聞いた」1.2%、「その他」2.3%、「無回答」5.8%の順であった。したがってキンボールを知るきっかけは、約 72%の人が講習会・研修会であった。その理由については、テレビ・新聞などのメディアでの紹介も増え、また大学を中心に「授業」等でも取り入れられているが、現時点では、日本キンボール連盟の講師ら（マスター）による地域講習会が普及活動の中心になっていると考えられる。

(2) キンボールの用具（ボール）について

キンボールのボールは、ピンク色で直径 122cm、重さ約 1kg、荷重耐久 100kg。2層構造で、アウターはナイロン、インナーボールはラテックス製でできており、インナーボールが割れても安全な作りとなっている。

質問は、受講者がそのボールに初めて触れた時の感想を、大きさ、重さ、色について聞いた。大きさについては、「大きすぎる」41.8%、「丁度良い」45.6%、「わからない」8.4%、「無回答」4.2%であった。キンボールゲームでは、サーブ時にはサーバー以外の 3 人がボールに触れていなければならない、というルールがあるため、ゲーム特性から考えて直径 122cm のボールでも「丁度良い」という回答が 45.6%得られたと考えられる。一方、「大きすぎる」と答えたのは 41.8%で、「丁度良い」とほぼ同率の結果となった。これは、ボールを 1 人で扱う場合に、抱きかかえることもできず、またボールの反発力がある為、講習会参加者が大変苦勞したことが考えられる。ゲームをより楽しむためには、初心者に対して、導入段階において 1 人でボールを扱う為の練習を十分に行うことが重要である。

次に、ボールの重さについては、「重すぎる」19.2%、「丁度良い」64.9%、「わからない」7.5%、「無回答」8.4%という結果であった。「丁度良い」と感じた講習会参加者が過半数を越えたにもかかわらず、「重すぎる」と感じた講習会参加者がいた理由として、一つに、サーブ・レシーブ時の衝撃から重いと感じたことが考えられる。

最後に、ボールの色については、「良い」80.8%、「悪い」5.0%、「わからない」、「無回答」はそれぞれ 7.1%であった。日本で使用されているボールのほとんどはピンクで、講習会で用いたボールもピンクであった。³⁾ このボールの色に関しての参加者の反応は良かったと言える。

一表 2- 最初にキンボールに触れたときの感想

(大きさ)	%	(重さ)	%	(色)	%
大きすぎる	41.8%	重すぎる	19.2%	良い	80.8%
丁度良い	45.6%	丁度良い	64.9%	悪い	5.0%
わからない	8.4%	わからない	7.5%	わからない	7.1%
無回答	4.2%	無回答	8.4%	無回答	7.1%

N=239

(3) キンボールゲームについて

キンボールゲームは、4人1チーム、3チーム（ピンク・グレー・ブラック）がサーブ・レシーブを繰り返し得点を競いあうボールゲームである。コートサイズは 15m～21m×15m～21m の正方形。1チームがサーブを行ない、コール（「オムニキン+チームカラー」）を受けたチームがサーブをしたボールをノーバウンドでレシーブ。レシーブに成功すれば、そのままサーブすることができる。しかし、レシーブを失敗すると、残りの2チームに1点ずつ加点される。こうしてタイムアップ時にいちばん得点の多いチームが勝者となる。

「キンボールゲームに参加していかがでしたか」という質問で感想を訊ねた結果は、「大変楽しかった」62.3%、「まあまあ楽しかった」33.1%、「あまり楽しくなかった」0.4%、「全く楽しくなかった」0.8%、「無回答」3.4%であった。「大変楽しかった」「まあまあ楽しかった」と感じた人は約95%に上り、参加者のほとんどがキンボールゲームを楽しんでいたことが伺える。また、その理由を自由に記述してもらい、主なものを以下にピックアップした。

- ・チームワークが必要
- ・ハードな運動
- ・運動量が適当
- ・知り合いが増えた
- ・大きなボールが良い
- ・頭を使う
- ・笑いが生まれる
- ・年齢に関係なく楽しめる
- ・楽しく動けた
- ・初心者でも楽しめる
- ・ルールが簡単
- ・スピードがある
- ・手軽に楽しめる
- ・新鮮だった

次に、「ルールについてどう思いましたか」については、「よく理解できた」85.4%、「あまり理解できなかった」10.5%、「全く理解できなかった」0%、「無回答」4.2%となり、ほとんどの参加者が短時間の講習会でルールを理解することができた。

キンボールゲームは、サーブ時には4人がボールに集まり、またレシーブ時には15m～21m×15m～21mのコートをカバーし、サーブ・レシーブを繰り返す。これによりボールに対しての集散は幾度となく繰り返される。

そこで、講習会終了後にゲーム中の運動量について質問した。「ゲームに参加して運動量はいかがでしたか」では、「大変疲れた」26.4%、「やや疲れた」43.1%、「丁度良い」23.8%、「全く疲れなかった」2.1%、「無回答」4.6%となった。「大変疲れた」「やや疲れた」を合わせると69.5%もの参加者が、何らかの疲労感を感じていたことがわかった。すでに、ワンバウンド・ルールやコートサイズの縮小などのルールバリエーションで、対象者に合わせたゲームの実施もされているが、より一層の検討、改善の必要もある。

一表 3-1 ゲームを体験した感想

参加していかがでしたか		ルールについて		運動量はいかがでしたか	
	%		%		%
大変楽しかった	62.3%	よく理解できた	85.4%	大変疲れた	26.4%
まあまあ楽しかった	33.1%	あまり理解できなかった	10.5%	やや疲れた	43.1%
あまり楽しくなかった	0.4%	全く理解できなかった	0%	丁度良い	23.8%
全く楽しくなかった	0.8%	無回答	4.2%	全く疲れなかった	2.1%
無回答	3.3%			無回答	4.6%

N=239

(4) キンボールの生涯スポーツへの可能性

「今後、キンボールのゲームがあれば参加しますか」に対して、「はい」87.9%、「いいえ」7.1%、「無回答」5.0%という結果になり、ほとんどの参加者がキンボールを継続する意思を持っていたことがわかる。しかし、「キンボールが生涯スポーツに適していると思いますか」という質問に対しては、「はい」62.4%、「いいえ」32.6%、「無回答」5.0%となり、生涯を通じて継続するスポーツとして適しているという感想は過半数を超えたものの、参加継続の割合からはかなり低下していることがわかる。生涯スポーツとして適さない理由を自由に記述してもらい、主なものを以下にピックアップした。

- | | | |
|------------|------------|------------------|
| ・ハードな運動 | ・高齢者には無理 | ・ボールを軽く、柔らかくするべき |
| ・ルールの工夫が必要 | ・少人数ではできない | ・障害のある人には無理 |

生涯スポーツとしてキンボールが取り入れられていく為には、このような問題点を考慮していくことが必要であると考えます。

IV. まとめ

本調査での結果は次の通りである。

- (1) キンボール講習会を受講した人の約 62%がキンボールを知らなかった。また、キンボールを知るきっかけとして多かったのは講習会・研修会であった。
- (2) ボールの大きさに関して、「大きすぎる」と「丁度良い」はほぼ同率の結果となり、ボールの色については、ほとんどが「良い」と感じていた。
- (3) キンボールゲームが楽しかったと感じた人は約 95%で、参加者のほとんどが楽しんでおり、またルールも短時間で理解することができた。運動量については、約 70%が何らかの疲労感を感じていた。
- (4) ほとんどの参加者がキンボールを継続する意思を持っていたが、生涯スポーツとして考えた場合には、適しているという感想が参加継続の割合より低かった。

以上のことから、キンボールのさらなる発展のためには、多様な普及活動、ボールの大きさや重さ、対象者に合わせたルール作りなどの検討が必要と言えよう。

注記および引用・参考文献

- 1) 「KIN-BALL MANUAL FOR INSTRUCTORS AND PLAYERS」. 日本キンボール連盟.
1998年9月. p.1
- 2) <http://www.newsports-21.com/kin-ball/>
- 3) カナダでは、競技用にはブラックを使用し、小学生や一般向けにはピンクを使用している。日本においてもジャパンオープン決勝戦ではブラックを使用した。